活性生菌製剤の違いについて

鹿児島市医師会病院 薬剤部 ｜ 青木 理歩

腸内環境を改善する活性生菌製剤は，『整腸剤』とも呼ばれ“腸内菌叢の異常による諸症状の改善”という同一の適応症を有しています。下痢・便秘症，胃腸炎，消化不良，抗生物質や化学療法剤投与に伴う腸内細菌叢の異常にかかわる諸症状の改善など，医療において広く使用されている薬剤の１つです。

複数ある活性生菌製剤について，使い分けのエビデンスは確立されていませんが，菌種により消化管部位に対する親和性や特徴が異なります。今回は，それぞれの菌種の違いについてまとめました。

腸内環境や腸内細菌叢は，近年急速に研究が進み，私たちの健康と疾患に深く関与していることが分かってきました。消化管疾患のみならず，生活習慣病，自己免疫性疾患，認知症，自閉症など消化管以外の疾患との関連性も指摘され，治療として活性生菌製剤の有効性の検討や臨床応用の可能性が注目されています。また，ダイエットや美容，ストレスや睡眠不足の解消などを目的とした食生活や生活習慣の見直しも「腸活」と称され，話題となっています。超高齢社会に突入し，予防医療の重要性が高まっている現在において，腸内細菌叢への期待は大きくなっていくことが考えられます。

参考文献

各薬品インタビューフォーム，添付文書
東亜薬品工業株式会社ホームページ
公益財団法人腸内細菌学会ホームページ
ビオフェルミン製薬ホームページ
森永乳業ホームページ
同効薬・類似薬のトリセツ

<table>
<tr><th>分類</th><th>特徴</th><th colspan="3">主な薬剤と１錠または 1g あたりの成分含量</th></tr>
<tr><td>ビフィズス菌</td><td>偏性嫌気性桿菌で，小腸下部～大腸で増殖し，グルコースから乳酸と酢酸を産生する。有害菌増殖抑制作用，腸管運動促進作用等がある。</td><td>ビオフェルミン®錠
（ビフィズス菌 12mg）
ラックビー®錠，微粒 N
（ビフィズス菌 10mg）</td><td rowspan="2">ビオスミン®配合散
（ビフィズス菌 4mg
ラクトミン 2mg）
レベニン®S 配合散・錠
（ビフィズス菌 4mg
ラクトミン 2mg）</td><td></td></tr>
<tr><td>ラクトミン
（乳酸菌）</td><td>通性嫌気性菌で，小腸下部～大腸で増殖し乳酸等を産生する。有害菌増殖抑制作用，腸粘膜保護作用等がある。</td><td>ビオラクト原末
（ラクトミン１g）
アタバニン®散
（ラクトミン 50mg）
ラクトミン散・末
（ラクトミン１g）
ビオヂアスミン F-2 散
（ラクトミン１g）</td><td rowspan="2">ビオフェルミン®配合散
（ラクトミン 6mg
糖化菌 4mg）</td><td rowspan="3">ビオスリー®配合散
（ラクトミン 10mg
酪酸菌 50mg
糖化菌 50mg）

ビオスリー®配合錠・OD 錠
（ラクトミン 2mg
酪酸菌 10mg
糖化菌 10mg）</td></tr>
<tr><td>糖化菌</td><td>偏性好気性桿菌で小腸上部で増殖し，乳酸菌やビフィズス菌の増殖を促進する。芽胞を形成しており，胃酸の影響を受けにくい。</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>酪酸菌
（宮入菌）</td><td>偏性嫌気性桿菌で，小腸～大腸で増殖し，短鎖脂肪酸や各種代謝産物を産生する。有害菌増殖抑制作用，有用菌発育促進作用，消化管粘膜上皮細胞増殖促進作用等がある。芽胞を形成しており胃液や胆汁酸，腸液，消化酵素などの影響を受けにくい。</td><td colspan="2">ミヤ BM®細粒
（宮入菌末 40mg）
ミヤ BM®錠
（宮入菌末 20mg）</td></tr>
</table>